

加佐

学校教育目標

『 仲間とともに 夢と希望をはぐくみ 学びあい 認めあい 鍛えあう生徒の育成 』

学校だより 12月号

平成29年12月1日

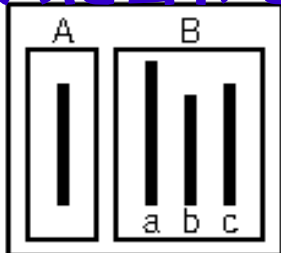
舞鶴市立加佐中学校

TEL 83-0004 FAX 83-3201

E-mail kasa-jhs@kyoto-be.ne.jp



人に合わせる？合わせない？



アメリカの社会心理学者ソロモン

・アッシュは、1950年代に他人へ

の同調行動に関する実験を行いました。同調行動とは、グループで食事に行った時、一人がラーメンを注文したら人につられて自分も同じラーメンを注文する行動です。アッシュの実験では、8名の実験参加者が順番に上の図で、Aのカードに示した線と同じ長さの線をBのカードa～cから選びます。さほど難しい問題ではなく、答えはcです。ただし、8名の中で本当の実験対象者は1名で、残りの7名は、事前に言う答えを決められている実験上のサクラです。前述したカードで線分の長さを色々と変えながら18回の試行を繰り返して、実験対象者は7番目に答えます。試行の中でサクラ全員が同じ間違っ

本校が目指す生徒像

知；真面目に考え判断力のある子

徳；思いやりを持って助け合う子

体；健康でたくましく行動する子

た答えを言う場面（圧力試行）を設けると実験対象者も同じ間違っ

た答えを言うケースが出てきたのです。何と実験対象者は、答えが違

うと分かっているにもかかわらず同調して答えを言うのです。圧力試行は、18回の試行の内で12回行い、同じ実験を実験対象者を変え実施しました。すると実験対象者の74%は、少なくとも1回以上はサクラに同調した答えを言いました。（圧力試行の半分以上の7～12回サクラに同調した実験対象者は、28%いました。）そして実験参加者が互いに知り合

いで、顔を見ながら実験をするとその同調行動の率は、更に高まったのです。ただ、同調行動が全て悪いのではなく、圧力試行に同調しやすい人は周りの状況を判断し、きっと社会生活のスキルは高いと考えられます。要は、誰も心の中に強弱はあるものの、ある場面で人への同調行動が潜んでいることを理解して物事に対処する必要があるので

しょう。加えて、同調行動を利用され自分自身が操られていない

かをふと立ち止まって考えなくてはなりません。

ものの捉え方は多様に・・・難しいことですが

昔、ある国に靴の販売を考えた2つ会社があって現地調査をしました。その

国の状況は『①一部のお金持ちは、靴を履いている。②仕事で外国人と接するとき以外は、靴を脱いでいる。③一般の人は、靴に関心を示さず裸足である。』でした。一つの会社は「靴を履く習慣が、この国にはないので販売拡大は見込まれない。」と靴の販売を断念しました。もう一方の会社は「靴を履いている人が少ないので、この国の人のために安い靴を作れば必ず売れる。」と靴を販売し、靴を普及させました。経営判断の是非は、いわゆる結果論かもしれませんが、そこには最終的に人のためになるのかどうかの視点が重要な気がします。更に質の良い靴を作れば、鬼に金棒なんだろうとテレビドラマ【陸王】を観ながら感じました。



校長 山口 茂

教職員一同